

ホワイトボード (WB) の使用について

1. 原則

- 使う目的をはっきりさせる。
- WBにかかせたら、必ず授業中に使う。
「せっかくかいたのに発表も何もしなかった。かかなくてもよかった。」ということになる。
- 「WBの方が、便利である。」「WBでないとうまくいかない。」「WBでないためだ。」というときに使う。
- 「WBでなくてもいい。」というときは、使わない。

2. 利点

- 残すことができる。→次時に持ち越すことができる。
- 個々の考えがお互いにかかる。比較できる。(子どもたちも先生も)
- お互いに考えや解き方の過程を知ることができる。
- できた子どもから黒板に貼らせていくと、友だちがかいたのをみて、自分が解くためのヒントにすることができる。
- 貼る場所を変えられるので、同じ考えや同じ解き方のものを集め、分類整理ができる。
- コミュニケーション能力(説明する力、自分の考えを人に伝える力など)を育成することができる。

3. 問題点

- かくのに時間がかかる。
→慣れさせる。
→WBにかいてから、それを見てノートにかく。ノートにかいてからWBにかくと、時間がかかる。
- 全部黒板に貼れない。
→分類した場合は、分けて貼る。
→同じものを重ねる。
→小さなWBを使う。(A4ぐらい)
- 全員、発表させると時間がかかる。
→発表の仕方を工夫する。慣れさせる。
→同じ考えや同じ解き方をした場合は、省略させる。「〇〇さんと同じです。」
→付け加えの部分だけ発表させる。
- 字が小さくなる。
→大きくかくように指示する。
→太いマーカーを使わせる。

4. 使い方

- ①全員にかかせて、全員分黒板に貼って、全員に説明させる。
- ②全員にかかせる。→ミニ発表会をする。→子どもたちに「よいもの」を選択させて、代表だけが、黒板に貼り、説明する。
- ③ノートにまずかかせ、教師が、WBにかいて黒板に貼る子どもを選択指名する。(ちがう考え、ちがう解き方の子どもを選択し、重複を避ける。)
- ④ノートにかけた子どもが、WBにかき、それをあとからできた子どもが見て、ちがう考え、ちがう解き方であればWBにかく。(子ども自身に重複をさせさせる。)
- ⑤自分の考えをかいて、黒板に貼り、意見交換の中で考えが変われば即時かき直す。

WBは、ノートと同じ。

指導者の授業や意図によって使い方は変わる。

どのように使うかは、指導者自身の問題である。